

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770700179		
法人名	医療法人 上善会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム星のふる里		
所在地	沖縄県石垣市字新川2105番地		
自己評価作成日	令和3年11月8日	評価結果市町村受理日	令和4年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4770700179-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和3年 12月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内にて、病院、通所、老健施設の法人内施設が併設。夜間時でも急変時には、早急に対応でき、災害時にも、併設している病院や老健施設とも連携体制がとられています。多くの外部事業所を持ち、勉強会や講演会も盛んで、連携し地域・医療・介護ケアに努めています。グループホームでは、全職員が介護福祉士の資格を持ち専門的介護ケアの提供を行っています。食事など、地域食材を使用し、行事・郷土料理、人気メニューを取り入れ入居者様に喜ばれています。地域の一員として行事や家族交流会、職場体験など、家族・地域の方との触れ合いも大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、同じ敷地内にある病院を本部とし、老健施設も併設されていて医療、福祉の連携のもとグループホームが運営されている。コロナ感染対策も法人本部の「感染防止委員会」の指示により徹底されていて、職員への研修が行われている。
諸般の問題点や課題の改善、職員の意見については月例の「介護ミーティング」において話し合わせ、情報の共有が図られる仕組みができています。
入居者の介護計画作成にあたっては、職員の日々のモニタリングをもとに、「介護ミーティング」の場を利用してカンファレンスが行われ、ケアマネジャーがケアプランに反映する取り組みを行っている。
家族からの意向や希望は、毎月本部の病院に入居者の通院支援に来た際に管理者と話し合いが行われて関係は密となっている。食事は職員の手作りであり、都度近くのスーパーに買い出しに出かけ、入居者の好みに柔軟に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域で、地域との関わりを大切に、家庭的な雰囲気の中で、安心した生活を送れるよう努めていくように、毎朝の申し送りにて、職員全員にて理念を唱和し確認している。	事業所の定期会議は、職員全員参加の「介護ミーティング」を月1回(18時～19時)行われていて、入居者の諸問題について話し合いが持たれているほか、法人の理事長以下グループの法人の管理者が参加する「業務開発委員会」(月例)を開催し、理念を含め諸般の問題についての確認や改善について協議が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の参加や、法人の祭りや敬老会、ボランティア公演、スーパーでの買い出しを通じて、地域との方達との触れ合いを大事にしている。	コロナ禍の折り、地域との交流が難しい状況であるが、平常時は地域の行事である豊年祭やハーリー等、見学参加している。法人が行う秋祭り、敬老会の開催等日常的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年受け入れている、中学生・高校生の福祉体験・職場体験を通して、認知症への理解を伝え、触れ合う事で、少しでも認知症の方の気持ちや支援方法を理解してもらえるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を通して、行政・地域・知見者・家族より、意見や助言を頂き、職員と話し合いを行い、サービス向上に努めている。	コロナ禍の中、書面開催となっているが、2か月に1回の運営推進会議が行われていて、議事録を行政や包括支援センターや参加メンバーに郵送し、意見を収集して、事業所の運営に反映している。議事録など見やすい資料の作成の工夫に期待したい	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、行政からの意見・助言を頂いたり、必要な時は連絡・確認を行っている。入居者によっては、地域包括支援センターとの連携体制を取り、連絡・相談を行っている。	運営推進会議には行政、包括センターの参加があり、運営会議を中心に事業所の課題や問題点について広く意見や助言をもらえる関係にある。運営推進会議を有効利用し事業所の運営に生かしている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないよう、職員間で話し合いや勉強会を行い拘束しないケアに努めています。居室においてはセンサー。フロアにてはコールクションを使用し対応している。玄関や庭に出る窓は常時開放し、外に出る際は職員が付き添いする。	運営推進会議閉会后、身体拘束適正化委員会が開催されている。 身体拘束適正化に関する研修会は年2回テーマを決めて開催されており、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、身体拘束適正化委員会の「委員会名簿」を整備する必要があるため作成することを望む。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待などの研修の参加。勉強会を行い、意識付け、情報の共有、話し合いを行い、虐待させない環境作りに努めている。	虐待防止のためのマニュアルが整備され、年2回の研修会が行われていて、管理者は問題点が散見された場合は、都度注意をすとともに共有すべきことについては、月例の「介護ミーティング」の場で問題点を提起し、情報共有を図りながら虐待が起こらないケアの実践に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を申請されている方が居られ、理解を深める為、権利擁護や成年後見人制度の勉強会を行い、活用出来るよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、利用する際、丁寧に行っている。説明後、疑問・不安・要望があれば聞き入れ、説明を行い理解、納得されたうえで契約されている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱の設置。利用者、家族より意見や要望がある場合は、その都度対応し、職員へ情報共有し、話し合いを行っている。	事業所の敷地内にある本部の病院への通院支援に家族が月1回必ず来所するため、この機会を通じて家族の意見や要望について話し合いが行われていて、職員に情報共有を行いながら事業所の運営に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から意見や提案がある場合は、その都度対応している。毎月の職員ミーティングで話し合いを行い、意見を取り入れながらケアの質の向上につなげている。	職員の意見は月例「介護ミーティング」を中心に吸い上げる仕組みができている他、「勤務考課表」や職員個々の目標を設定する「個人目標カード」を通じて、職員の人事考課が行われている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人努力目標・勤務考課表を取り入れ、上司と目標達成への努力、実績と評価と相談等について、面談を行い助言している。	人事考課を行う際は法人本部の担当課長、管理者、職員本人の3人で行われていて、「勤務考課表」や職員個々の目標を設定する「個人目標カード」をもとに職員個人の目標の達成具合について話し合いが行われていることで職員のやる気にも繋がっている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、勉強会や外部から講師を招き勉強会を行っている。外部研修に参加し、ミーティングなどで報告・勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地元同業者とは、主に電話連絡での情報共有を行っているが、職員同士の交流する機会はない為、交流する場を設け、情報共有、相談など行い連携し、ケアの向上を図っていきたい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い、本人に寄り添いながら、信頼関係を築き、日常生活の中での言動や、行動を感じ傾聴し、その方にあったケアを行うことができる。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時は家族も不安である。家族の気持ちに寄り添い理解し、要望、相談等に耳を傾けて、コミュニケーションを図っていく。面会時や電話などで、利用者の様子を報告し、サービスの確認や苦情・要望がないか確認する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向を、電話や面談の中で確認し、本人にあったサービス、必要とするケアの支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事は自分で。共に生活を送ることで、信頼関係築き、人生の先輩として尊重し敬い、支え合い、安心してホームでの生活を送れるよう支援する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員任せにならないよう、日頃から家族様に声かけを行い、行事等の参加や病院受診の願いをし、本人と家族様の触れ合いを大切し、コミュニケーションを図り、より良い関係作りを行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々、親戚や友人の方が面会に来られ交流を図っています。行事等で外出もされている。	コロナ禍の折り、面会を制限していて馴染みの人との交流は難しい状況にある。平常時は、家族等は近距離にいるため入居者への訪問は頻繁に行われている。また敷地内にある法人グループの老健施設が行うイベントにも積極的に参加して交流が図られている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配慮をし、家事・レク活動等参加を促し、孤立しないように交流しやすい環境作りを行い、また、交流が難しい時は、職員が間に入り、利用者様同士の交流に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もこれまでの関係を大切に、必要に応じて経過確認を行い、相談、助言を行っている。他施設に移動された方には、面会に伺い、状態や状況を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話が可能な方は、本人より希望、意向を確認行いますが、意思確認が難しい場合は、本人の動向や家族から聞き取りを行い、思いを把握してケアに努めている。	入居者のほとんどは、事業所の敷地内にある法人の病院か老健からの入居であり、入居前の情報は法人グループ間で共有できており、医療、福祉の多職種間での関わりあいのもと、家族の思いや本人の意向が総合的に把握できる仕組みが出来ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談や面会時等、家族様より本人の生活歴や様子を聞き取り確認を行い、ケアに活かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、利用者様の様子を観察し、気づいたことなど、職員と情報共有し、記録を行っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態を把握し、3カ月ごとのモニタリングを行い、本人・家族の意向を聞きながら話し合いを持ち、支援方法を考え、見直しを行っている。	職員は日々のケアの中からモニタリングを行い、家族や本人の意向をくみ上げ、月例の「介護ミーティング」でケアマネジャーを中心に職員からの情報をもとに介護計画に反映する取り組みができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化を観察・記録し、職員間での情報収集・共有し、家族と担当者が話し合い、これまでのプランの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	申し送りや、ミーティングにて支援方法を話し合いを行う。家族様に、病院受診などをお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で参加される方や、身の回り方から情報や資源をを教えてもらい、活用できる事は相談している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院が併設されている為、定期受診、急変時に対応が出来る体制がとられている。病院受診は家族様をお願いしているので、かかりつけ医にて受診されている方もいる。	事業所の敷地内にある法人本部の病院への通院は家族の支援で行われており、ドクター、家族、本人、事業所との間でスムーズに受診結果の情報が共有されている。 訪問看護は8h/週行われ、健康管理に関する情報も事業所との間で共有されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週8時間配置あり。朝・昼の訪問があり、利用者様のバイタルチェックや薬の管理を行っている。24時間オンコール体制で緊急時、夜間でも対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医療機関と連携を図り、主治医、担当看護師、相談員などと話し合い、情報収集し、病状の把握し連携を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、本人・家族様の希望を確認し、そのうえで事業所でできることを説明し、方針を共有しています。医療機関への希望がある場合は、関係機関との連携を行っている。	看取り支援は敷地内の法人本部で行っていることから、看取りは行われていない。こうした対応については、入居時に家族、本人に丁寧に説明して理解を得ている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変や事故に対するマニュアルを作成し、訪看や医療機関との連携を行っている。	「事故発生時対応マニュアル」を整備して、法人本部の病院や敷地内の「老健」とも連携しながら万一の事故発生時の対応について、職員への研修も取り組んでいる。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	年2回の消防・災害訓練を行っている。災害対策での地域と協力体制はとれていないので、民生委員の方などを通し協力体制を築いていきたい。感染対策では、毎月のミーティングで話し合いを行い、法人内の勉強会にて予防対策の訓練を行っている。	災害対策訓練は、火災を想定して年2回行われている。台風災害などによる停電対策として、停電被害が予測される場合は発電機のレンタルで電源を確保しており、過去の停電の場合も支障なく対応ができています。感染対策に関しては母体の医療機関と連携している。事業所独自のマニュアルの作成に期待したい。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として意思や人格を尊重し、態度、言葉使いに注意し、プライバシーにも配慮し対応している。	入居者へプライバシーに関する問題が散見された場合、管理者はその職員に都度注意を行うほか、月例の「介護ミーティング」の場で取り上げ、問題の解決と情報の共有を行い、事業所が整備している「プライバシー保護マニュアル」をもとに注意喚起を常に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人の思いや希望を確認している。意思確認出来ない方は、声掛けなど行い、表情をくみ取りながら自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の取り組みがあり、流れに沿って行っているが、本人の様子・体調を見ながら、利用者が過ごしやすいように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選び身だしなみなど、本人に確認しながら行っているが、意思表示ができない方は、職員が支援し清潔保持に努めている。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事・季節に合わせた料理。週に1度の人気メニューを取り入れたり、利用者から好みなど聞き取りをして、喜ばれる食事を提供している。野菜のつくろい、洗い物などの手伝い、月1回、利用者参加の手作りおやつ会を行っている。	職員の手作り調理で食事を提供しており、食材は地元スーパーに都度買い出しに行っており、入居者の希望にも柔軟に対応している。入居者は調理の手伝いや配膳、下膳もできる者は行っている。大晦日や正月、敬老会等の行事食やイベント食も積極的に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎食チェックし、体調や体格に合わせた食事を提供しています。水分量が少ない方には工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員付き添いにて行っています。自己でできる方は声かけ、見守りし、難しい方には、職員が介助し、口腔状態をチェックしながら清潔保持に努めています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、排泄チェック表の確認もしながら、それに応じて排泄への声掛けを行っている。利用者の表情・行動を観察し、排泄へ誘導できるように支援している。	排泄シート記録を参考にトイレ誘導を行い、終日オムツ使用の入居者にはパッド交換を早め行う取り組みを行っていて、入居者個々の排泄に関する情報を月例の「介護ミーティング」で情報共有を行い先回りケアに努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品や植物繊維を取り入れ、食事に工夫をしている。水分摂取の促し、体操やレクリエーションなどで体を動かし、排便リズムを作りトイレ誘導を行っている。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4回、入浴日、時間は決まっているが、その日の体調、気分によって難しい場合は、時間や曜日を変更し柔軟に対応している。	週4回の入浴支援(シャワー浴)を基本としており、体調やその日の気分により柔軟に対応を心掛けている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間や休息時間は記録を確認しながら、個々の生活習慣に合わせ声掛けを行っている。日によっては時間がずれることがあります。本人に要望を聞きながら気持ち良く寝れるよう支援している。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、職員がいつでも確認できるように、服用されている個々の一覧表のファイルが作成しており、薬変更などはノートやファイルに記入している。利用者の状態の変化があった場合は、訪看と相談し医療機関へ受診している。	誤薬や誤った服薬が発生しないように「服薬管理マニュアル」を整備し、月例ミーティングで徹底を図っている。 服薬による入居者の状態に変化があった場合は、速やかに法人本部の病院に連絡できる体制が整っている。訪問看護師を交えたミーティングと看護師による勉強会等看護師を活用することを望む。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、本人が出来る範囲で役割をもち、職員見守りにて行っている。買い物、ドライブ、レクリエーションなど楽しみを支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや買い物、利用者の希望に添えながら行っている。本人や家族の要望などがあった場合は、家族に協力を頂きながら支援を行っている。	コロナ禍の中では難しい状況であるが、事業所の前庭にある畑に農作業への誘導や毎日の外気浴に努め、入居者が少しでも外の空気に触れるように努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人により希望があれば、一緒に買い物に行くなど希望に添える様にしています。自分で選んで、支払いをする一連の動作を本人に行ってもらっている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも対応しています。字を書くのが苦手の方には、職員が代筆などを行っている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、分かりやすいように表記している。季節ごとに飾りつけをし季節感を味わってもらい、音楽を聞いたり、テレビを観たりとリラックス出来る空間づくりを行っている。	コロナ感染防止のため、換気や床の掃除、机の消毒を徹底することに努め、本部法人の「感染対策委員会」の指示のもと、感染防止に努めている。入居者に四季を楽しんでもらえるような壁の飾り付けにも工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には、食席の他にソファ椅子を置き気分によって過ごしたり、職員や利用者同士の談笑、余暇活動が出来るように工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を居室で使用したり、家族の写真や観葉植物を置いたり、リラックス出来るように工夫している。	入居者の部屋は、クーラー、洗面台、整理ダンス、ベッドが常備されている。個人の持ち込みも自由であり、その人らしい好みのもを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすい表記を行い、手すりを配置し障害物を取り除き、見守りにて安全に移動したり、声掛けでできることを促している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	感染症の予防やまん延防止の為の指針を整備し、研修や訓練を定期的実施	感染症の予防やまん延防止の為の事業所独自のマニュアル作成。事業所独自で、勉強会や訓練を行う。	法人の医療機関の感染委員会が作成したマニュアルを元に、事業所独自のマニュアル作成し、訪看を交えての勉強会や訓練を行う。	5ヶ月
2	34	急変や事故発生時に備えて、訓練や実践力を身につける	訓練や実践力を身につける	事故防止委員会の勉強会を、法人内で定期的に行っているが、事業所独自の急変や事故発生時の訓練や勉強会を行っていない為、訪看と連携し行う。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。